

令和8年度 第1回 鹿児島県立図書館協議会の開催結果

1 開催日時

令和8年7月15日（水） 午前10時から午前11時30分まで

2 開催場所

鹿児島県立図書館 第3研修室

3 出席委員

大田 高行 委員、豊蔵 錦子 委員、田淵 千春 委員、尾場瀬 ちなみ 委員、山本 智子 委員
岡田 祐介 委員、下豊留 佳奈 委員、宮内 基希 委員、須部 貴之 委員

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者

記者1名

6 議題

- (1) 県立図書館の運営に関する点検及び評価結果について
- (2) 県立奄美図書館の運営に関する点検及び評価結果について

7 審議結果等の概要

(1) 研修室利用について

研修室の利用状況が、奄美図書館と県立図書館で大きく違うのはなぜか。奄美図書館は申し込みをwebでできるが、県立図書館も同じようにしていると思う。周りの状況が違うのでなかなか伸びないということか。

→ 研修室利用について、目標値 140 件に対し、実績値が 112 件であり、達成率は 80%だった。近隣に同様の施設があることや、広報の周知不足もあると感じている。図書館の HP 上に案内しているだけでなく、鹿児島観光コンベンション協会の HP 上にある鹿児島会議室ガイドの中に県立図書館も載せている。それを見て県外の方を含め問い合わせもある。

また、申し込みについては、県立図書館の場合、HP に申請書を載せ、電話での問い合わせという形で対応している。今後も、引き続き広報活動に努めていきたい。

(2) 医療福祉施設への団体貸出について

それぞれの団体貸出冊数が目標を大幅に達成しておりすばらしい。今回福祉施設や放課後デイサービスまで含むということで、子供たちが本に親しむという点において、今までになかった取組をしていると感じた。

具体的にはどのようにして団体に貸し出し、それを子供たちも含めていろんな方がどのように読まれるのか教えていただきたい。

→ 医療福祉関係の団体に、団体貸出として貸し出す取組を行っている。1 団体につき 50 冊 3 週間という形で貸出を行っている。この団体貸出については、私どもも想定を超える利用があり、昨年度 1 年間に 21 団体が 3,690 冊を借りている。

また、今年 4 月から 6 月までの貸出冊数を見ても、概ね月に 100 冊程度増加している。

医療福祉に関する事業所自体が増加しているという事も大きな要因ではないかと感じている。

今後も各種団体に向けて情報を発信しながら提供できればと考えている。

(3) 医療福祉施設への団体貸出について

医療福祉に関する事業所自体が増加しているという背景を 1 つ教えていただいたが、その増加の割合よりもさらにそれ以上に貸出の割合が増えているような印象があるが、本が欲しいという先方の要望の中で特徴的なものはあるか。

→ 放課後デイサービスで、子供たちを預かる中で、本の役割を各事業主が理解してい

ただき、読み聞かせあるいは個人的に読む活動がなされていると感じている。

(4) 図書館見学について

修学旅行の受入れについて、イメージがわからないが、体験学習的な感じで勉強されているのかとか具体的にどのように利用されているのか聞きたい。

→ 図書館の修学旅行での活用について、主に当館に修学旅行で見えられるのが、宮崎県、熊本県であり、事前に旅行会社を通じて、図書館を訪問させていただきたいと連絡がある。その中にはおそらく黎明館や博物館などスタンプラリー形式で文化ゾーンを巡るといった活用ではないかと思われる。来館した子供たちは、児童文化室に滞在し、置いてある児童書を読んだりして活動していただいている。

(5) イベントについて

西郷隆盛生誕 200 年没後 150 年に関して、椋鳩十の時には大きな成果が上げられたが、今後何かしら考えているのであればお聞きしたい。。

→ 令和 9 年がそれにあたるということで、毎年夏と冬に貴重資料展を実施し、かごしま歴史文化講演会を開いているが、来年度については、その 2 つに焦点を合わせて、今準備を着々と進めている。

鹿児島市の方でいろいろと力を入れており、県の方でどのように絡んでいくのかははっきりしない部分もあると思うが、確実に文化ゾーンを歩く県内外の方々が増えると思うので、うまく呼び込めるような形をとっていただければ、さらに県立図書館の認知度も向上すると思う。

(6) 館内での飲水について

館内で飲み物が飲めるようになったと思うが、来館者の方々の様子とかどのくらい普及しているのが今の状況でわかれば教えていただきたい。

→ 県立図書館では、飲み物はこれまで何回も検討はしてきたが、蔵書の保全という立場から飲み物は控えていただいていた。この気象条件を鑑みて、利用者のニーズにどれだけ応えられるかというところで、今年度に入って協議を重ねた。そして 7 月 1 日から 1 か月間、どのような課題が出てくるかという事も考えながら試行して

いる。条件としては、蓋付きで密閉できる容器、また結露を予防するためにカバーをする、カバーがない場合は館で貸し出している。

最初は、認知度がなかったため、持ち込みは少なかったが、2週間あまり経ち、だんだん認知度が高まってきて、たくさんの利用者が持ち込みをし、館内で飲んでいる状況である。ただ、飲む場所については、限定している。今の状況をみると、このまま提供していきたいと考えている。

奄美図書館では、蓋付きの飲み物の持ち込みは以前から行っているが、貴重資料等の多い郷土コーナーについては除くとしている。